

CF-430VB₂ 取扱説明書

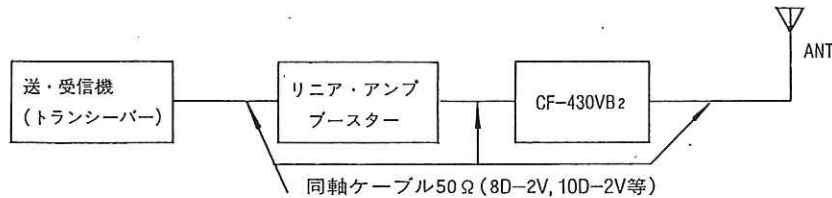
430MHz帯可変BPFは送信時において低・高調波のスプリアスを防止し、クリアな送信ができます。受信時は周波数特性をシャープな設計にし、430MHz～440MHzの間で可変できる様になっているため特にローカル局の混入を防止します。又機構的にハイパワーで設計されています。

仕様

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| (1) 周波数可変範囲 | 420MHz～450MHz(ロック機構付) |
| (2) そう入損失 | 1.0dB以内(1.0dBにセット) |
| (3) 減衰量 | 右図に記す |
| (4) 入出力インピーダンス | 50Ω |
| (5) 許容最大入力 | 200W |
| (6) V.S.W.R. | 1.2以内 |
| (7) 入出力接栓 | N型 |
| (8) 重量 | 2.2kg |
| (9) 大きさ | W140×D185×H140
(但し突起物は含まない) |

フィルタの使用法

- ダイヤルを別紙のダイヤル校正曲線グラフのダイヤル目盛に合わせる事により、希望周波数に共振する事ができます。
- フィルターは 図の様に送信機出力回路又は受信機入力回路と空中線間に挿入して使用します。フィルターは入出力側とも同じインピーダンスですから極性はありませぬ。ブースターまたはリニアアンプを使用する場合にも又、同様にリニアアンプと空中線との間に接続します。
- 受信のみに使用する場合にはそう入損失を1.0dBに合わせる事により、よりシャープな特性が得られます。また本体と蓋の間に銅板を入れています(電波のもれ防止)のでビスの締付は強くして下さい。



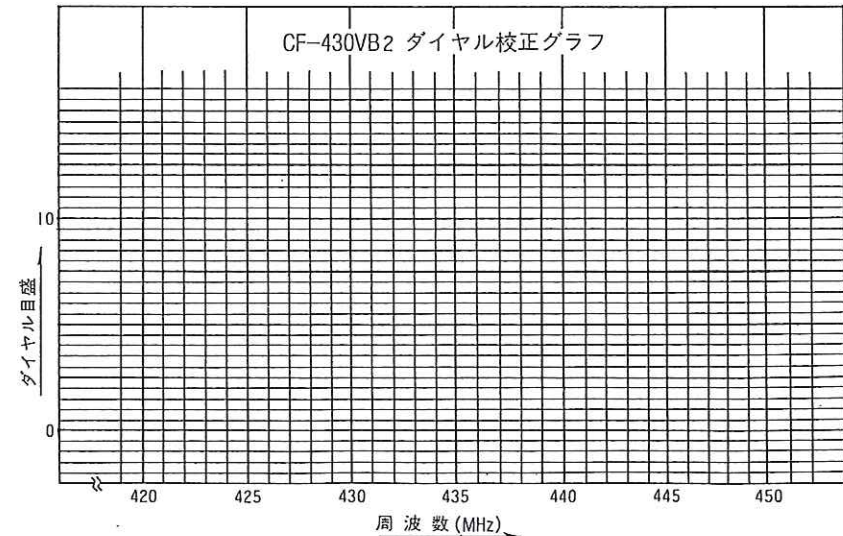
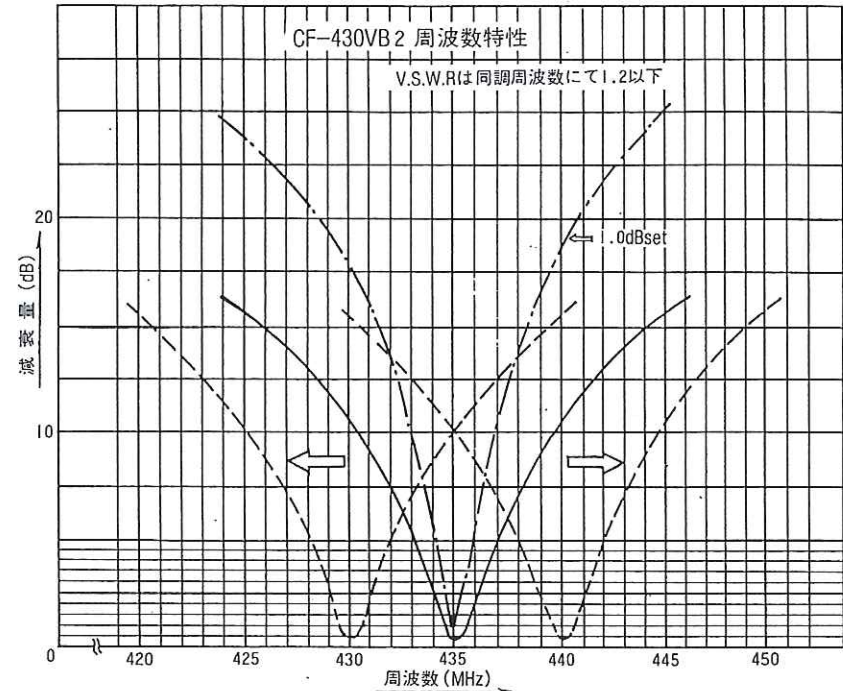
使用上の注意

- 空中線と送受信機、トランシーバーの整合は正しく行って下さい。整合が悪い場合はフィルターの効果は半減します。SWRメーター等で出来るだけ1に近づける事により、正しい整合が行なわれます。
- 本品は防水形ではありません。
- 空中線からフィルターまでの同軸ケーブルをロスが少ないものを使用する事により、良い送受信が出来ます。
- ダイヤルは0.0より10.0までの範囲で使用して下さい。
- そう入損失を1.0dBにするには、ループ銅板を壁側に押し、ループの中心を壁との間隔を3mm程度にする。→ 0.5dBにするには、ループを内壁体側へ押し高さ16mmにする。

コメント株式会社

本社：〒336 埼玉県浦和市辻4-18-2 ☎048-839-3131(代) FAX. 048-839-3136
 大阪営業所：〒560 大阪府豊中市豊池東町4-1-15 ☎06-844-0693 FAX. 06-853-2011
 仙台営業所：〒982-01 仙台市若林区上飯田横堀87-1 ☎022-285-9506 FAX. 022-285-9507
 福岡営業所：〒816 福岡市博多区井相田2-2-5 第3七福ビル ☎092-592-2531 FAX. 092-592-2532
 札幌営業所：〒004 北海道札幌市厚別区厚別南4-34-3 ☎011-892-7575 FAX. 011-892-7571

性能向上の為、予告なく外觀、仕様を変更する事があります。



430MHz帯 可変形バンドパスフィルタ

MODEL CF-430VB 取扱説明書

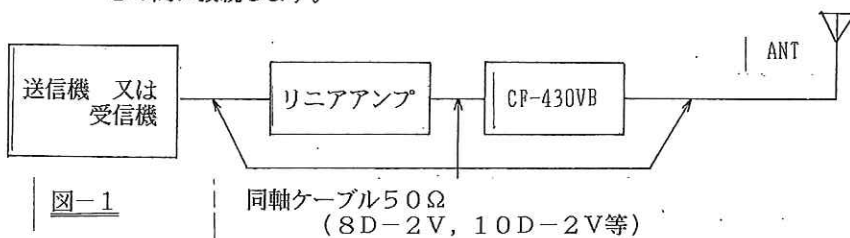
430MHz帯可変BPFは送信時において低・高調波のスプリアスを防止し、クリアな送信ができます。受信時は周波数特性をシャープな設計にし、430MHz~440MHzの間で可変できる様になっているため特にローカル局の混入を防止します。又、機構的にハイパワーで設計されています。

仕 様

- | | |
|----------------|---------------------------------------|
| (1) 周波数可変範囲 | 417MHz~450MHz |
| (2) 挿入損失 | 1.0 dB |
| (3) 減衰量 | 図-2に示す |
| (4) 入出力インピーダンス | 50 Ω |
| (5) 許容入力 | コネクタ破壊まで |
| (6) V. S. W. R | 1.2 以下 |
| (7) 入出力接点 | N形 |
| (8) 重量 | 3.74 Kg |
| (9) 形状寸法 | W 180mm×D 180mm×H 180mm
(突起物は含まない) |

フィルタの健康法

- ダイヤルをダイヤル校正グラフのダイヤル目盛に合わせる事により、希望周波数に共振させる事ができます。
- フィルタは図-1のように送信機出力回路、又は、受信機入力回路とアンテナとの間に挿入して使用します。フィルタは入出力の極性はありません。ブースター又はリニアアンプを使用する場合にも同様にリニアアンプとアンテナとの間に接続します。



健康上の注意

- アンテナと送受信機の整合は正しく行って下さい。整合が悪い場合フィルタの効果は半減します。SWRメーター等にて、できる限り1に近付けることにより正しい整合が行われます。
 - 本品は防水形ではありません。
 - アンテナからフィルタまでの同軸ケーブルはロスの少ないものを使用することにより、より良い送受信ができます。
- ※ 受信専用として使用される場合、挿入損失を2~3dBとしてフィルタの特性をシャープにしますと混信等が軽減されます。

図-2

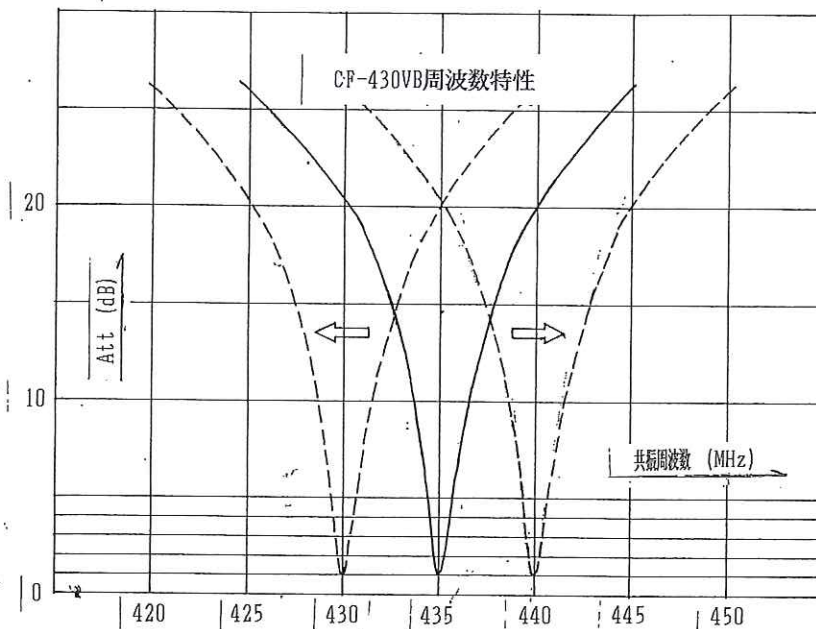
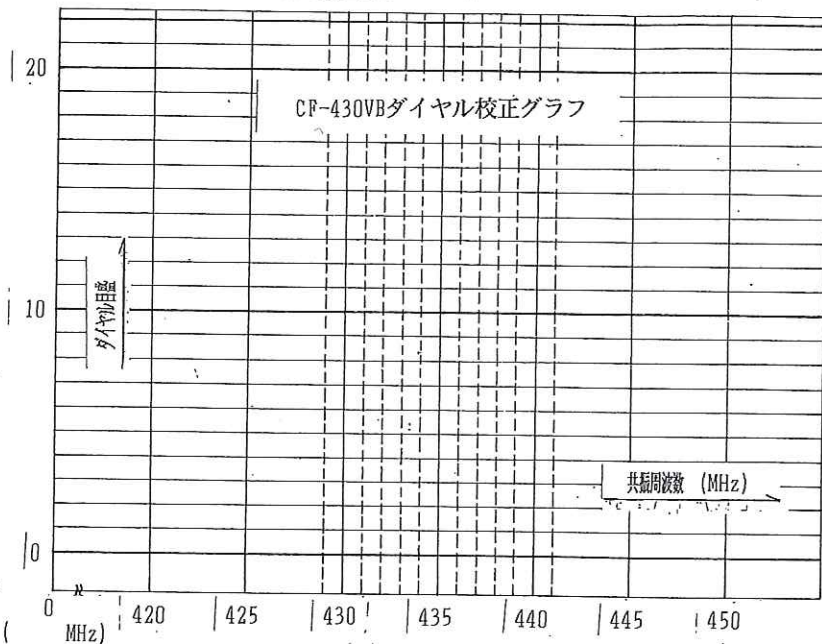


図-3



コメント株式会社

本社: 〒336 埼玉県浦和市辻4-18-2 ☎048-839-3131(代) FAX. 048-839-3136
 大阪営業所: 〒563 大阪府池田市空港1-5-22 ☎06-844-0693(代) FAX. 06-853-2011
 仙台営業所: 〒982-01 仙台市若林区上飯田横堀87-1 ☎022-285-9506 FAX. 022-285-9507
 福岡営業所: 〒816 福岡市博多区井相田2-2-5 第3七福ビル ☎092-592-2531 FAX. 092-592-2532
 札幌営業所: 〒004 北海道札幌市厚別区厚別南4-34-3 ☎011-892-7575 FAX. 011-892-7571